

消化管内科を受診している患者さんへ

当科では、下記の研究を実施しています。この研究は、愛知医科大学医学部倫理委員会において、ヘルシンキ宣言の趣旨に添い、人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針等を遵守し、医の倫理に基づいて実施されることが審査され認められた研究です。

今回の研究は、対象となる患者さん一人ずつから直接同意を得て行う研究ではなく、研究内容の情報を公開し、研究対象者となることを拒否できる機会を与えることが求められているものです。もし、この研究に関するお問い合わせなどありましたら、以下の「問い合わせ先」までご連絡ください。

記

研究課題名	結腸憩室出血に対する有効な治療法の確立を目的とした多施設後ろ向き研究
研究機関名	愛知医科大学病院
研究機関の長	病院長 道勇 学
担当科等	消化管内科
研究責任者	准教授(特任) 海老正秀
試料・情報を利用する学外の研究機関名・研究責任者名	名古屋市立大学 消化器代謝内科学 病院助教 片野敬仁
研究の意義・目的	大腸憩室出血は消化器科救急診療で多く遭遇する疾患で、臨床上重要な疾患であるものの、その診断・治療に関する知見は十分に集積されていないのが現状です。内視鏡検査・治療が不応な持続性の出血患者に対しては動脈塞栓術(TAE)が選択されますが、造影CTで出血源が同定される憩室出血症例に対して第一選択としてTAEで止血を行うことの有用性が示唆されるが十分なエビデンスが蓄積されていません。今回、多施設共同で結腸憩室出血に対する有効な止血法を確立するために本研究を立案しました。
対象となる患者さん	2010年1月から2021年6月30日の間に下血などで当院を受診し、結腸憩室出血として入院治療が行われた患者さん
研究の方法	診療記録より当院研究担当医師が情報を収集し、調査票へ入力します。入力した調査票は研究事務局(名古屋市立大学 消化器・代謝内科学)で保管され、集計・解析されます。この研究成果は学会や学術雑誌などで発表することがあります。
研究期間	研究実施承認日 ~ 2025年3月31日
研究に用いる試料・情報	情報: 背景因子(年齢、性、併存疾患、抗血小板薬・抗凝固薬などの併用薬、来院時の血圧・心拍数、血液検査所見など) 造影CTを施行された症例に関して、造影剤の腸管内への漏出・出血源の同定の有無、造影CTで出血源が同定された症例に対して、第一選択としてTAEを施行された群(TAE群)と大腸内視鏡を施行された群(内視鏡群)の治療成績・臨床経過
外部への試料・情報	名古屋市立大学 消化器代謝内科学

の提供	
試料・情報の利用又は提供を希望しない場合	本研究への試料・情報の利用又は提供を希望しない方は、2025年3月31日までに下記問い合わせ先まで申し出てください。
問い合わせ先	愛知医科大学 医学部 内科学講座 消化管内科 担当者：助教 杉山智哉 〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1 電話 0561-62-3311（内線 23480）